

平成 25 年度第 6 回常務理事会議事録

日 時： 平成 26 年 3 月 14 日（金） 15：00～17：35

会 場： ステーションコンファランス東京 602AB

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岩下 光利、平松 祐司

常務理事：青木 大輔、苛原 稔、加藤 聖子、藤井 知行、峯岸 敬、吉川 裕之

監 事：落合 和徳、嘉村 敏治、吉村 泰典

第 68 回学術集会長：井坂 恵一

特任理事：海野 信也、南 佐和子

理事会内委員会委員長：片渕 秀隆、工藤 美樹、久保田 俊郎、竹下 俊行、竹田 省、
水上 尚典

幹事長：澤 倫太郎

副幹事長：阪埜 浩司

幹 事：上田 豊、加藤 育民、岸 裕司、北澤 正文、桑原 章、榊原 秀也、
佐藤 豊実、関根 正幸、高倉 聡、多賀谷 光、永瀬 智、西 洋孝、西ヶ谷 順子、
矢幡 秀昭

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事の総数 12 名のうち 9 名（吉川史隆理事、木村正理事、八重樫伸生理事は欠席）が出席し、定足数に達しているため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、監事の計 4 名を選任し、これを承認した。

冒頭、小西郁生理事長より、子宮頸がんワクチンについては勧奨再開に向けて進んでおり政治的判断の段階に来ていること、日本専門医制評価・認定機構が発展的に解散して日本専門医機構に移行することが決まったこと、についての説明があった。

I. 平成 25 年度第 5 回常務理事会議事録（案）の確認

原案通り、承認した。

II. 業務担当常務理事報告

1) 総 務（岩下光利副理事長）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向 なし

(2) e 医学会について

京葉コンピュータサービスの担当者により、4 月からの新会員専用ページについてのデモンストレーションがあった。

阪埜浩司副幹事長「基本的には現在の会員専用ページのコンテンツと変わらない。パスワードは 8 ケタ

以上となるが、スタート直後に出てきた質問から Q&A を作って会員にお示しすること、ログイン率をモニターして普及を図っていくことを考えている。」

(3) 名誉会員の詮衡基準について [資料：総務 1]

岩下光利副理事長「名誉会員の詮衡については、過去からの慣例もあって運用基準がはっきりしていないところがあった。規定のあいまいな部分を整備するとともに、たとえば特任理事の扱いをどうするかなど、最近の状況に適合する規定に改変するため、運営委員会のなかにワーキンググループを設置して1年間かけて議論を詰めていきたいと思う。」

落合和徳監事「来年度推薦される名誉会員候補者には、まだ新しい基準は適用されないということか。地方学会にも前広に周知して正確に認識しておいてもらう必要がある。」

岩下光利副理事長「定款施行細則の変更なので、来年の総会で承認を受けて再来年度からの適用となる。4月の地方連絡委員会でもこの問題意識をお伝えするようにしたい。なお過去からの慣例の扱いについて確認したが、名誉会員の推薦に変更が生じるような問題はなかったことをご報告しておく。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

岩下光利副理事長「なお理事選任ワーキンググループの答申についてだが、前回理事会の議論を踏まえた修正案を作成して平岩敬一先生に見ていただいた。平岩先生からは、理事についても代議員の選任に準ずるべきという意見であった。このあと吉田幸洋委員長との協議の場を設けた上で来月の臨時理事会に再修正案を提出する予定になっている。」

(4) 平成 26 年度臨時総会次第について [資料：総務 3]

岩下光利副理事長「議事の流れを考えて平成 25 年度事業報告を最初に持ってきてはどうか、との提案があり、専門医規約・施行細則の変更議案などとの順序を入れ替えた。」

(5) 総会運営委員会、決算委員会委員について [資料：総務 4]

(6) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

① 卵巣がん・卵管がん・腹膜がんの手術進行期分類の改訂(案)および子宮肉腫、外陰がん、膣がんの FIGO 進行期分類を日本産科婦人科学会として用いることについて [資料：総務 5]

青木大輔委員長「FIGO の卵巣がんのステージング発表を受けて本邦における卵巣腫瘍の登録のあり方検討小委員会が邦訳を作成した。これを本会が使うステージングとして承認いただく予定である。なおこの中の II B 期の部分は『他の骨盤腹膜内臓器・・・』、III C 期で直径を最大径と修正いただきたい。子宮体部肉腫、腺肉腫、外陰がんについてもすでに本会機関誌や子宮体癌取扱規約などに載っているが正式には本会のステージングとして認めてもらっていないので、今回承認いただきたいと考えている。またこのなかでの大腿リンパ節という表現は鼠径リンパ節に統一することにしたい。膣がんについても FIGO のものを翻訳して使うこととしたい。これらのレアディージーズの登録も進めていきたい。理事会承認後は関連学会とも協議し、取扱規約の改定や機関誌への掲載などで対応したい。」

吉川裕之理事「II B 期の部分は腹膜内というより腹腔内とした方がよいのではないか。」

青木大輔委員長「小委員会で検討したい。」

② 子宮頸がん予防ワクチン接種医師向けマニュアル案を作成した。[資料：総務 5-1]

小西郁生理事「インフォームドコンセントと筋肉注射、接種後の説明、副反応へのフォローアップ

についてふれている。特にフォローアップについて大学病院の産婦人科が中心となって体制を作って対応していきたいと考えている。」

吉川裕之理事「因果関係がはっきりしない状況で患者を保護する、無過失補償的な側面のある事業である。賠償のイメージに受け止められないような工夫が必要ではないか。」

小西郁生理事長「受診料などについての考え方はあまり整理されていないが、基本的には健康保険で対応してもらうことになる。」

海野信也特任理事「マニュアル案に『多くが軽快する』とあるが、『多く』とはどのくらいの比率なのかについて、患者サイドの関心が強いのではないか。」

小西郁生理事長「分母の取り方がはっきりしないので難しい。確認しておきたい。」

岩下光利副理事長「反対派の意見は、副反応を心因反応と決めつけるのは問題がある、ワクチン接種ですべて予防できる訳ではないのに全員接種となっている、HPVに感染しても全員が子宮頸がんになるわけではない、検診を受けるほうが効果的ではないか、などである。」

加藤聖子理事「産婦人科の立場からはこのマニュアル通りであり修正は不要だが、反対派の意見も意識して、大部分が心因反応としても他の要因が全く否定されたわけではなく学会としても基礎的な検討を見守り発症メカニズムについても真摯に受け止める、という姿勢が必要だと思う。」

③厚生労働省健康局結核感染症課から、3月19日開催の自民党参議院政策審議会でHPVワクチンの必要性などについて説明してほしいとの依頼があり、小西郁生理事長が出席する。

[資料：総務5-2]

(ハ) 周産期委員会 特になし

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

① ホルモン補充療法ガイドライン2012頒布状況について

3月4日現在、入金済7,404冊、校費支払のため後払希望 8冊。

(7) 役員賠償責任保険を1年間継続したい。

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

①同省雇用均等・児童家庭局母子保健課から、「不妊に悩む方への特定治療支援事業の実施について」の通知を受領した。本会ホームページおよび機関誌に掲載して会員に周知したい。

[資料：総務5-3]

②同省雇用均等・児童家庭局母子保健課から、健やか親子21次期計画案に関する意見募集依頼を受領した。本会ホームページに掲載して会員に周知した。[資料：総務5-4]

③同省医薬食品局安全対策課より、医薬品・医療機器等の副作用・感染症・不具合報告のお願いを受領した。本会機関誌に掲載して、会員への周知を図りたい。[資料：総務5-5]

(2) 法務省

50歳以上の女性を母とする出生届については法務局に照会して一定の審査を経ることになっているが、法務省民事局民事第一課ではこの通達を見直すにあたって高齢出産の現状について本会

にヒアリングがあり、岩下光利副理事長が対応した。

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会

①日本医学会を通して独立行政法人科学技術振興機構から「フィリピン台風30号を対象とした国際緊急共同研究・調査支援プログラムの提案募集のお知らせ」の周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して、会員に周知した。〔資料：総務6〕

②日本医学会を通して独立行政法人医薬品医療機器総合機構から、消費税率変更に伴う対面助言等の手数料額改定についての周知依頼を受領した。本会機関誌およびホームページに掲載して、会員に周知した。〔資料：総務7〕

(2) 日本医師会

日本医師会から、同会が公益社団法人に移行するに伴い現在の疑義解釈委員会委員の任期が6月28日まで延長される旨の案内、および次期疑義解釈委員会委員の推薦準備の依頼を受領した。

〔資料：総務8〕

(3) 日本産婦人科医会

日本産婦人科医会では「帝王切開術 保険点数減の撤回等に関する要望」を厚生労働大臣あてに提出するにあたり、医会員に対して署名を集めている。厚生労働大臣あて要望書については、通信理事会の結果、本会も同会と連名で提出することとした。なお、この要望書には日本周産期・新生児医学会も参加することとなった。〔資料：総務9〕

(4) 日本医療機能評価機構

同機構から「胎児心拍数モニター記録に関する保存期間を5年間を目途としてほしい」との依頼を産科医療補償制度加入分娩機関に出すにあたり、本会の承諾を求めてきた。〔資料：総務10〕

海野信也特任理事「保険約款に書いていない以上、医療機関としての義務はない。強制力のないなかで医療機関に原因分析を目的とした要望するのは難しいのではないかと。」

岩下光利副理事長「学会からではなく、日本医療機能評価機構から通知するべきかもしれない。」

海野信也特任理事「本件は病院施設にとっては対応可能だが、診療所施設は難しいかもしれない。日本産婦人科医会にも要請が行っているのだから、その対応を見て本会は追随すればよいと思う。」

海野信也特任理事の意見につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(5) 遺伝性乳癌卵巣癌コンソーシアム

遺伝性乳癌卵巣癌の専門医認定の動きについて、本会としても協議しておきたい。〔資料：総務11〕

青木大輔理事「この会は日本乳がん学会の班会議を母体にして始まった学術集団である。日本乳がん学会としては、この問題の受け皿がないのでこの会の方向性は支持したい、ということであった。専門医認定についてまだ進んでいる段階ではない。」

小西郁生理事長「コンソーシアムという責任を持った団体とは言えないが、動向を注視しておきたい。」

苛原稔理事「日本乳がん学会の中でも情報が回っておらず、本件は同学会とは別の所での動きと思う。」

小西郁生理事長「本会としても卵巣がんがあるので積極的に関わり、遺伝子診断、カウンセリング、リスク低減手術をやるという形に持っていくことが必要だと思う。」

青木大輔理事「この件には、本会、日本乳がん学会、日本人類遺伝学会が関わっており、関係者がそろって話し合いを進める必要がある。」

小西郁生理事長「日本医学会のなかで相談できる体制を作っていくことを考えてみたい。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(6) 日本家族計画協会

同会機関誌「家族と健康」の60周年記念号に、同会の支援団体として本会名を掲載することの許諾依頼があった。経済的負担はなく、これを応諾したい。[資料：総務12]

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(7) 女性労働協会

同協会は母性健康管理に関する周知・啓発資料としてミニカードを作成し、本会に送付してきた。

[資料：総務13]

(8) 日本乳がん検診精度管理中央機構

同機構の理事推薦について、大村峯夫先生、土橋一慶先生より受諾の連絡があった。本会として両先生を推薦したい。

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(9) 科学技術振興機構

同機構より、科学技術コミュニケーション推進事業機関連携推進「機関活動支援型」、「ネットワーク形成型」の募集案内を受領した（募集期間3月10日～5月9日）。本会ホームページに掲載して会員に周知したい。

[IV. その他]

(1) 2月24日に放映された報道ステーションのHPVワクチンについての報道について

小西郁生理事長「現状では経過を見守るしかないと思う。」

吉村泰典監事「このようなケースでの反論は難しいが、会員に対しては早急に本会の考え方を示す必要があったのではないか。今後はこのようなケースの対応について考えておいた方がよい。」

(2) 日本家族計画協会から、平成 26 年度女性医療セミナー（2014 年 6 月 1 日・東京 JP タワーホール &カンファレンス、8 月 3 日・大阪コングレコンベンションセンター）の後援名義使用許可依頼を受領した。経済的負担なく、これを承諾したい。

(3) 第 32 回日本受精着床学会総会・学術講演会「市民公開講座」（2014 年 8 月 1 日、東京医科大学病院臨床講堂）の後援名義使用許可依頼を受領した。経済的負担なく、これを承諾したい。

(4) その他

平松祐司副理事長「台湾の産婦人科学会などでは博物館を作るなど、過去の記録をしっかり残している。本会も自らの歴史を整理しておく体制作りを検討してみてもどうか。」

小西郁生理事長「写真を置くなど、少し検討してみたい。」

岩下光利副理事長「KSOG や TAOG は訪問すると手厚い対応をしてくれる。両会との関係上、本会もある程度対応した方がよいように思う。」

2) 会 計（吉川史隆理事） 特になし

3) 学 術（峯岸敬理事）

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催 なし

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第 66 回学術講演会プログラム委員会

(ロ) 第 67 回学術講演会プログラム委員会

(ハ) 第 68 回学術講演会プログラム委員会

峯岸敬理事「第 68 回学術講演会のシンポジウム課題については、4 月臨時総会で提出できない状況になった。学術委員会としてはプログラム委員会に内容を検討してもらい、6 月定時総会には示せるようにしたい。応募者の不利益がないように、締切を 1 月中旬に延ばして対応したい。」

4) 編 集（藤井知行理事）

(1) 会議開催

① 2 月 21 日に編集担当理事会を開催した。

② 3 月 14 日に和文誌編集会議ならびに JOGR 編集会議を開催した。

(2) 英文機関誌（JOGR）投稿状況：2014 年投稿分（2 月 27 日現在）

Accept	7 編
Reject	22 編
Withdrawn/Unsubmitted	54 編
Under Revision	1 編
Under Review	116 編

Pending	0 編
Expired	0 編
投稿数	200 編

藤井知行理事「医学中央雑誌刊行会から本会和文誌抄録を同誌でも読めるようにしたいとの申し入れがあり作業を進めることになった。1 件あたり数百円の手数料が入る。また最近の編集会議では不正論文の審議に多くの時間が割かれている。不正論文は対応ソフトを使うとすぐに分かる。不正が分かった場合、指導教官も処罰される。会員にも不正論文について注意を喚起した方がよいと思う。」

5) 渉 外 (木村正理事欠席につき、上田豊主務幹事)

(1) 会議開催 なし

[FIGO 関係]

(1) FIGO World Congress 開催可能地を FIGO に連絡した。

[AOFOG 関係]

(1) AOCOG 2015 (2015 年 6 月 3～6 日、マレーシア Sarawak で開催) に本会より 10 名のスピーカーを推薦した。

(2) 11th Chien-Tien Hsu Memorial Lecturer として藤井信吾先生を推薦した。

藤井知行理事「2 月末から 3 月にかけて AOFOG の Constitutional Review Committee に参加した。AOFOG の人事は今まであまり民主的ではなかったが、今回、Treasurer と Deputy Secretary General は選挙で選ぶこと、Executive Board に Counsel の代表を出すこと、任期の明確化など、少し民主的な方向に進んできている。」

[TAOG 関係]

(1) 53rd Annual Congress of TAOG (2014 年 3 月 8～9 日、於：台北) における Exchange Program について、本会より岩下光利副理事長、木村正渉外担当常務理事、八重樫伸生教育担当常務理事、桑原章幹事、および若手医師 5 名を派遣した。また、アンバサダープログラムにより作成した JSOG 記念品を配付し、JSOG の歴史と活動を紹介するビデオを上映した。

[その他]

(1) FIGO-SAFOG-SLCOG 2014 (10 月 30 日～11 月 2 日、於：スリランカ Colombo) における本会による session について

上田豊幹事「本会として落合和徳先生を座長に、木村正先生、片渕秀隆先生、藤井知行先生で対応するが、先方の事務局から Reproductive Endocrinology の講演依頼があり、現在調整中である。」

6) 社 保 (青木大輔理事)

(1) 会議開催

3月14日に第5回社会保険委員会を通信にて開催した。

(2) 平成26年度診療報酬改定による「経皮的卵巣嚢腫内容排除術」の新設について

日本小児外科学会と協議して厚生労働省に要望を行った結果、同省保健局より、平成26年度診療報酬改定に関して、「経皮的卵巣嚢腫内容排除術は、単房性の卵巣嚢腫を呈した1歳未満の患者に対して実施した場合に限り算定する」との通知を受領した。[資料：社保1]

青木大輔理事「経皮的卵巣嚢腫内容排除術の通知については本会ホームページに掲載して会員に周知したい。また帝王切開の保険点数が減点となったが、その他の問題点を含めて精査した上で緊急要望として6月頃に提出したい。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

7) 専門医制度 (吉川裕之理事)

(1) 日本専門医制評価・認定機構

①日本専門医制評価・認定機構加盟学会第2回意見交換会が2月23日(日)に、第3回意見交換会が2月28日(金)に開催され、第2回は小西郁生理事長、第3回は岩下光利副理事長が出席した。
[資料：専門医1-1、1-2、1-3、1-4]

②日本専門医制評価・認定機構第3回社員総会が2月28日(金)に開催され、岩下光利副理事長が出席した。ここでは現機構の解散および財産分与と新機構の社員構成についての提案があった。
[資料：専門医2-1、2-2、3]

吉川裕之理事「新機構の社員に、基本領域となる19領域代表者という形で加わることになった。」

佐川典正議長「専門医および指導医の認定手数料、更新手数料の引き上げ理由の一つが新機構への支払いだとのことだが、新機構の社員は19領域代表者だけでなく、全学会の代表者が入らないと組織として機能しないのではないか。」

小西郁生理事長「各領域代表者はサブスペシャリティ学会を含んだ領域の代表である。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(2) 地方委員会あて通知

平成26年度審査等に関わる各種様式・研修出席証明シール、平成26年度専門医認定審査等についての案内を平成26年度事業計画を添えて地方委員会あてに3月13日に送付した。

(3) 専攻医指導施設指導責任医あて通知

第66回学術講演会時に開催される「指導者のための講習会」参加者推薦依頼状を暫定指導医・指導医資格要件とともに指導施設指導責任医あてに2月24日に送付した。

(4) 指導医審査・登録料に関する専門医制度規約施行細則の改定案 [資料：専門医4、5]

平成27年度から開始される予定の、指導医認定審査料・登録料および指導医更新審査料・登録料の設定に伴う専門医制度規約施行細則の改定案を作成した。

吉川裕之理事「4月の臨時総会では専門医の認定手数料および更新手数料の引き上げを承認いただく

予定だが、本件は指導医の認定手数料および更新手数料の引き上げで各々一万円とする提案である。
これを6月定時総会に諮る予定である。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(5) 連合地方学会への指導者講習会開催のお願いについて [資料：専門医 6]

連合地方学会代表者あてに、指導医の資格要件に含まれる予定の「指導医講習会」開催の依頼を
3月12日に発送した。

吉川裕之理事「指導医講習会開催にあたっては、1回20万円程度、お支払いする方向で考えている。」

藤井知行理事「いつまでに開催するなどのタイムスケジュールや、内容についての基準などを示して
もらえるとよい。」

吉川裕之理事「講習会のテーマについては示してあるので、連合学会にある程度判断を任せている。」

片瀨秀隆理事「九州連合で昨年指導者講習会を行ったが、将来認定される可能性ありとの通知を行っ
ているのでこれへの対応も検討いただきたい。」

吉川裕之理事「eラーニングの認定の一つとして考えられるか検討したい。」

(6) 暫定指導医・指導医申請要件についての会員へのお知らせ[資料：専門医 7]

暫定指導医・指導医申請要件について一部修正（下線部分）した。

加藤聖子理事「指導医新規申請の資格要件で、第3共著者は認められないのか。」

吉川裕之理事「一つの論文で何人も認めることは難しい。個別相談になるかもしれない。」

(7) 専攻医指導施設研修プログラム作成の依頼(案)について[資料：専門医 8、9]

新専門医制度に対応するための専攻医指導施設研修プログラム作成の依頼書面(案)を作成した。

吉川裕之理事「専門研修基幹施設の認定を希望する施設は今年中に作成することを勧めている。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

8) 倫理委員会（苛原稔委員長）

(1) 本会の見解に基づく諸登録（平成26年2月28日）

- ① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：52 研究
- ② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：583 施設
- ③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：583 施設
- ④ 顕微授精に関する登録：526 施設
- ⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録：15 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

3月3日現在申請381例 [承認320例、非承認6例、審査対象外23例、取り下げ2例、照会18例、
審査中12例]（承認320例のうち9例は条件付）

(3) 「医学的適応による未受精卵および卵巣組織の採取・凍結・保存に関する見解」（案）

[資料：倫理1]

(4) 「再生医療等安全性確保法」の適用となる再生医療等（案）について

苛原稔委員長「聖マリアンナ医科大学の研究についてこれに該当する可能性があるため、同大学の研究者を同道して厚生労働省に説明してきた。厚生労働省も内容を理解してくれて検討の上で回答するということがあった。」

(5) 各種見解における「婚姻」に関する記載とその変更案について
2月22日の理事会において承認されており、学会誌4月号ならびにホームページに掲載し、5月9日を期限として会員からのご意見を受け付ける。

(6) 母体血を用いた出生前遺伝学的検査に関する臨床研究施設認可状況—2月28日現在計40施設
平成26年2月12日付 名古屋市立西部医療センター
平成26年2月28日付 東邦大学医療センター大森病院
平成26年2月28日付 総合母子保健センター愛育病院

(7) 3月14日13:30~14:30に、報道機関を対象としたPGSに関するブリーフィングを行った。
苛原稔委員長「メディアもよく勉強しており、活発な質疑があった。」

(8) 会議開催
①2月27日に「平成25年度第2回着床前診断ワーキンググループ委員会」を開催した。
②3月12日に「第1回PGSに関する小委員会」を開催した。

苛原稔委員長「今後、技術面、倫理面の検討と、臨床研究としてどのようにやっていく必要があるのかなどについて1年くらいの期間の内にまとめていきたい。」

③3月18日に「平成25年度第6回着床前診断に関する審査小委員会」を開催する予定である。
④4月2日に「平成26年度第1回倫理委員会」を開催する予定である。

9) 教育 (八重樫伸生理理事欠席につき、永瀬智主務幹事)

(1) 会議開催

2月21日	教育委員会若手育成委員会合同委員会
〃	専門医認定筆記試験問題作成委員会
〃	用語集用語解説集編集委員会
〃	TAOG 派遣予定者打合せ会
3月14日	第66回学術講演会時 IWJF 打合せ会

(2) 書籍頒布状況

電子版(iOS版並びにAndroid版タブレット端末専用): 3月4日現在

必修知識2013単体	179
用語集単体	55
必修知識2013+用語集	161
合計	395

書籍版: 3月4日現在

	入金済み(冊)	校費等後払い(冊)
産婦人科研修の必修知識2013	1,708	12
用語集・用語解説集改訂第3版	2,111	9
若手のための産婦人科プラクティス	2,252	3

(3) 用語集用語解説集編集委員会

- ①関連学会からの推薦委員を含め2月21日に編集会議を開催した。用語集用語解説集について、全面的に見直しを進めることとし、全用語をエクセルに落としものを各分野取りまとめて幹事に送付し、3月10日を締切として分野分けを依頼した。
- ②この後、主にメーリングリストを利用して、編集委員全員で担当分野用語の要否や不足用語の確認を依頼するとともに会員からの意見についても検討を始める。
- ③次回委員会は5月を予定している。

(4) 専門医認定筆記試験問題作成委員会

2月21日に各分野責任者ならびに幹事に他分野の選定問題について、他分野の専攻者から見た問題の適否を検討し、ほぼ素案がまとまったので、全体を通しての確認作業に入る。

(5) 産婦人科研修の必修知識2015に関する会員からの意見聴取

各大学に確認を依頼した内容を、機関誌66巻4号から67巻3号まで毎月約80頁程度掲載する予定である(8月号・9月号は学術講演会講演要旨関係掲載のため休刊)。
今後の必修知識の礎となるものであるので各大学には引き続きの協力を依頼したい。

(6) 専門医筆記試験に向けた例題と解説集 産婦人科研修の必修知識2013 補遺

3月中旬に初校が出る予定であり、その後校正を進め5月発刊を目指している。協力をいただいている若手の先生方に感謝したい。

10) 地方連絡委員会 (平松祐司副理事長)

4月19日(土) 12:00~13:00 ガラス棟G701で地方連絡委員会を開催する。

III. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (加藤聖子委員長)

(1) 会議開催

平成26年5月29日に、平成26年度第1回広報委員会を開催する。

(2) JOB-NET 公募情報について [資料: 広報1]

(3) ホームページアクセス状況について [資料: 広報2]

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料: 広報3]

加藤聖子委員長 「4月からe医学会が導入され、会員専用ページが変更となる。また広報委員会ではバナー広告を募集しており、趣意書を送ったところ3社から反応があった。」

2) 未来ビジョン委員会 (平松祐司委員長)

(1) 会議開催について

①第8回未来ビジョン委員会を3月14日に開催した。 [資料: 未来ビジョン1]

②第10回新しいプロモーションサイトに関する会議を3月14日に開催した。

(2) 女性の健康手帳について [資料: 未来ビジョン2]

平松祐司委員長 「方針として、著作権は学会に置く、冊子体と電子媒体の両方を利用する、本会を中心に出版社など2社を加えて3者が協力して作成する、副読本を出して広告費を取り全体の出版費用をまかなう、ということで考えている。今後、契約の締結に進みたい。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(3) 新しいプロモーションサイトについて [資料：未来ビジョン3]

平松祐司委員長「デモの改定版はだんだんと良くなってきた。臨時総会でこのプロジェクトとテスト版作成を認めていただいて、小西郁生先生のヒューマンプラスと5本のインフォメーショングラフィックス作成を進めていきたい。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

3) 震災対策・復興委員会 (岩下光利委員長)

(1) 震災対策サイトについてのワーキンググループを設置したい。

委員長：津田尚武

委員：久保隆彦、澤倫太郎、中井章人、永瀬智、西ヶ谷順子、阪埜浩司

岩下光利委員長「4月の震災対策サイト立ち上げ後に詳細を詰めるためにワーキンググループを設置したい。また震災対策マニュアルについては、当初の原稿提出時から状況が変わっている部分もあるので、委員会で一部修正をさせていただきたい。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(2) 震災対策サイト準備にあたり、発注業者の株式会社エムプラスと本契約に先立って機密保持契約を締結したい。[資料：震災対策1]

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

4) 診療ガイドライン運営委員会 (岩下光利学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

① 「産婦人科診療ガイドライン—産科編2011」頒布状況について
3月4日現在、入金済15,812冊、後払希望5冊。

(2) 産科編評価委員会 (海野信也委員長) なし

(3) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

① 「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編2011」頒布状況について
3月4日現在、入金済11,984冊、後払希望7冊。

(4) 婦人科外来編評価委員会 (峯岸 敬委員長) なし

5) コンプライアンス委員会 (工藤美樹委員長)

工藤美樹委員長「2月28日に日本医学会のCOI マネジメント研修セミナーに出席した。そのなかでは機関誌の査読者のCOIも場合によれば開示すべき、との話もあった。専門医研修プログラムにCOIを入れるなどについても今後検討が必要になると思う。」

吉川裕之理事「今後は学会としてのCOI、理事長のCOIなどが求められることになるかもしれない。」

6) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

(1) 本会会員の勤務場所に関する調査を日本産婦人科医会と共同で実施したい。ご承認いただければ、これを臨床研究審査委員会に申請し、2014年4月1日現在のデータとしてまとめたい。

[資料:医療改革1]

海野信也委員長「1月の拡大医療改革委員会で齋藤滋先生から富山県の産婦人科医師の動向と分娩数の調査報告があった。産婦人科医が『いまどこでなにをしているか』の調査を行うと将来像が予測できる。それにより地域格差の今後の姿が見えてくる。これを医療改革委員会の平成26年度のテーマとして調査することにしたい。そのため日本産婦人科医会と共同で年齢、性別、勤務場所など基本的データを集めるのを第1次調査とし、当直の有無、常勤、分娩の実施などについて大学医局を中心に情報を集めるのを第2次調査として進めたい。」

佐川典正議長「医師の中には非常勤だったり常勤になったり勤務形態が頻繁に変わるケースもあり、そこをきちんと把握しないと実態がはっきり捕捉できないのではないか。」

海野信也委員長「第2次調査の領域になるが、情報収集方法を考えたい。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会（片渕秀隆委員長）

(1) 会議開催

①2月20日に第3回男女共同参画・女性の健康週間委員会を開催した。

②2月20日に第3回男女共同参画・女性の健康週間委員会開催前に朝日エルとの話し合いを行った。

③3月14日に第66回日本産科婦人科学会学術講演会理事長推薦企画「ギネジヨの底力、ギネメンの胆力」打合せ会を開催した。

(2) 女性の健康週間について

①産経新聞掲載記事について [資料:男女共同1]

②東京新聞掲載記事について [資料:男女共同2]

③毎日新聞掲載記事について [資料:男女共同3]

④丸の内キャリア塾 女性の健康週間特別セミナーについて [資料:男女共同4]

片渕秀隆委員長「定員400名のところ、第1日は633名、第2日は842名の申込があり抽選となった。当日はそれぞれ372名、394名が参加し、盛会であった。」

⑤女性の生涯健康手帳配布について

女性の生涯健康手帳の申込書には送料着払いを明記しているが、送料負担を拒否し受け取り拒否する施設があり損金は本会負担となる。申込書に希望冊数記載がなかったり、規定の50冊単位未満の申込もある。どの産婦人科に行けば手帳を入手できるか、希望者は日産婦事務局へ直接申し込むよう指示したい、申し込んでいないのに手帳が送られてきた、などの問い合わせも毎年多数あり、配布に関しての問題点は多い。

片渕秀隆委員長「本委員会での女性の生涯健康手帳の担当は今回で最後となるが、配布に関しては、相当に事務局に負担になっていることをご理解いただきたい。」

(3) 地方学会担当市民公開講座について [資料:男女共同5]

8) 若手育成委員会（齋藤滋委員長欠席につき、西ヶ谷順子幹事）

(1) 会議開催

2月21日	教育委員会若手育成委員会合同委員会
4月19日	第8回産婦人科サマースクール打合せ会

(2) 産婦人科サマースクールに関連して

本年8月開催の第8回産婦人科サマースクールについて、前回までとの変更点は以下の3点である。

①実習ならびに講義を初期研修医向けと医学生向けに分ける。

②各大学の医局長あるいはその前後の先生にご参加をいただき、参加者との対話の場をプログラムに盛り込む(4月に各大学宛派遣依頼送付、5月10日受付終了の予定：宿泊先は学会で準備するが、旅費については大学(あるいは個人)負担とする)。

③応募の段階でその後学会や医会からのアナウンスの希望諾否を取る。

□第 66 回学術講演会学会書籍販売ブースにポスターならびにリーフレットの簡易版を配置する。

□募集開始：5 月 15 日/募集締切：6 月 15 日予定

(3)産婦人科スプリング・フォーラム

第 4 回スプリング・フォーラムを 3 月 1 日 2 日の両日にわたり、京都平安ホテルにおいて開催した。参加者は 55 名であった。

サマースクールに比べると認知度が低いことやなかなか臨床を離れづらい専門医合格から産婦人科専攻 10 年目前後の方を対象とすることから参加者数が少ないが、その多くが満足感をもって帰っている。来年も開催の予定であるので、参加者に対しては特段の配慮をお願いしたい。

西ヶ谷順子幹事「スプリング・フォーラムでは Plus One のアイデアをディスカッションした。学会への要望としては、研修のための指導教材やプロモーション映像媒体の作成、学生や研修医段階での学術集会への参加促進などがあった。」

(4)学術講演会ツアーリーフレットを作成したので、第 66 回学術講演会会場で配布したい。

[資料：若手育成 1]

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

9) 臨床研究審査委員会 (水沼英樹委員長)

(1)鈴木直先生より申請のあった研究課題「本邦における遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC) に対する診療状況に関する実態調査」についての臨床研究審査報告書を提出した。 [資料：臨床審査 1]

10) 医療安全推進委員会 (竹田省委員長)

(1)日本医療安全調査機構より、「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」における協力関係学会説明会の開催案内を受領した。本会から竹田省委員長が出席した。 [資料：医療安全 1、1-1]

竹田省委員長「死亡事故の際には院内調査委員会で分析・評価・対応策作成を行うことが原則だが、それができない場合は、第 3 者機関がサポートおよび担当するという形になっている。今後は、第 3 者機関の立ち上げと、医療法の中の地域医療介護総合確保法の改正となる。これが成立、公布された後、平成 27 年 10 月頃に医療事故調査制度は施行される。これにより、故意、犯罪、民事等を除いて医療者側が原因究明・再発防止を行う体制となる。4 月には本会に評価委員の推薦依頼がある予定である。」

加藤聖子理事「死亡事故の際の解剖をどうするかについての議論はあったか。」

竹田省委員長「モデル事業は全例解剖を行うことになっている。法医学者と病理医が不足している問題や予算について、準備期間のうちに検討する予定になっている。」

(2)日本医療安全調査機構の「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」の症例について、症例分析と改善対策案を検討する中央審査委員会委員に東京慈恵会医科大学の岡本愛光先生を推薦したい。 [資料：医療安全 2]

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

11) 公益事業推進委員会 (竹下俊行委員長)

(1)3 月 25 日に公益事業推進委員会を開催する予定である。

竹下俊行委員長「公益事業推進委員会では、未来ビジョン委員会などの本会の企画を支援する募金活

動ができないか)について、検討したい。」

12) 情報管理委員会 (久保田俊郎委員長) 特になし

13) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会 (井坂恵一委員長)

(1) 会議開催

5月30日に第1回婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会を開催の予定である。

井坂恵一委員長「悪性腫瘍のロボット支援下腹腔鏡手術の指針をホームページにアップした。良性疾患に対するロボット支援下腹腔鏡手術の指針についてはホームページでパブリックコメントを求めている。」

IV. その他

井坂恵一第68回学術集会長「第68回学術講演会のシンポジウム課題についての遅延についてはお詫びをしたい。今後はプログラム委員長に伊東宏絵先生に就任いただいて、しっかり進めて行きたい。」

以上